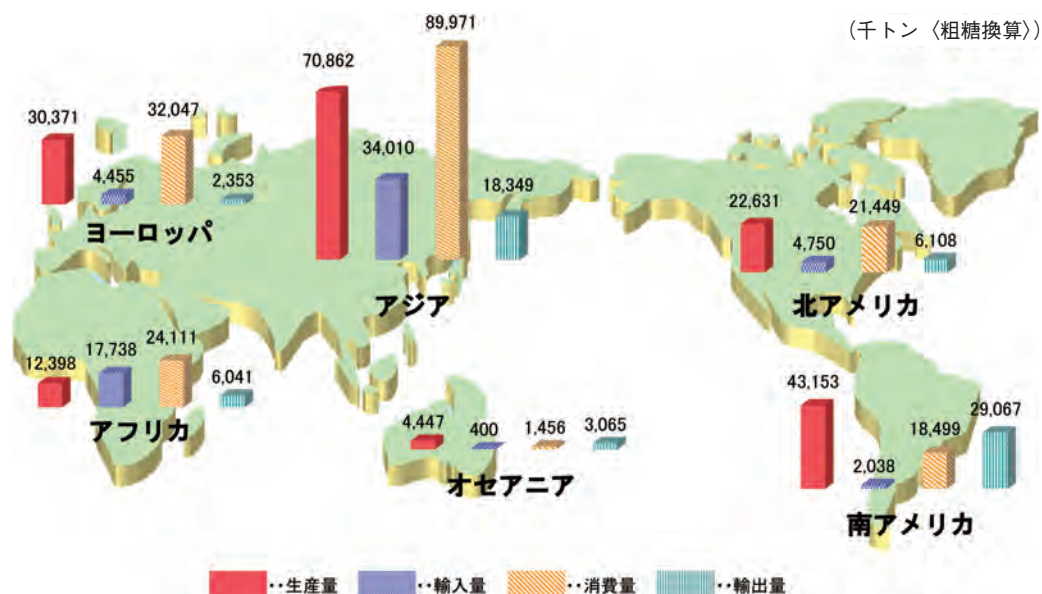


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2021年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,924	180,618	68,044	81,095	44.9
2018/19	81,095	186,454	61,232	184,261	61,706	82,813	44.9
2019/20	82,813	181,205	69,619	182,327	71,154	80,155	44.0
2020/21	80,155	182,030	67,347	185,895	67,821	75,817	40.8
2021/22 (2021年9月予測)	77,182	183,737	62,827	187,092	64,929	71,725	38.3
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2022年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002606.html

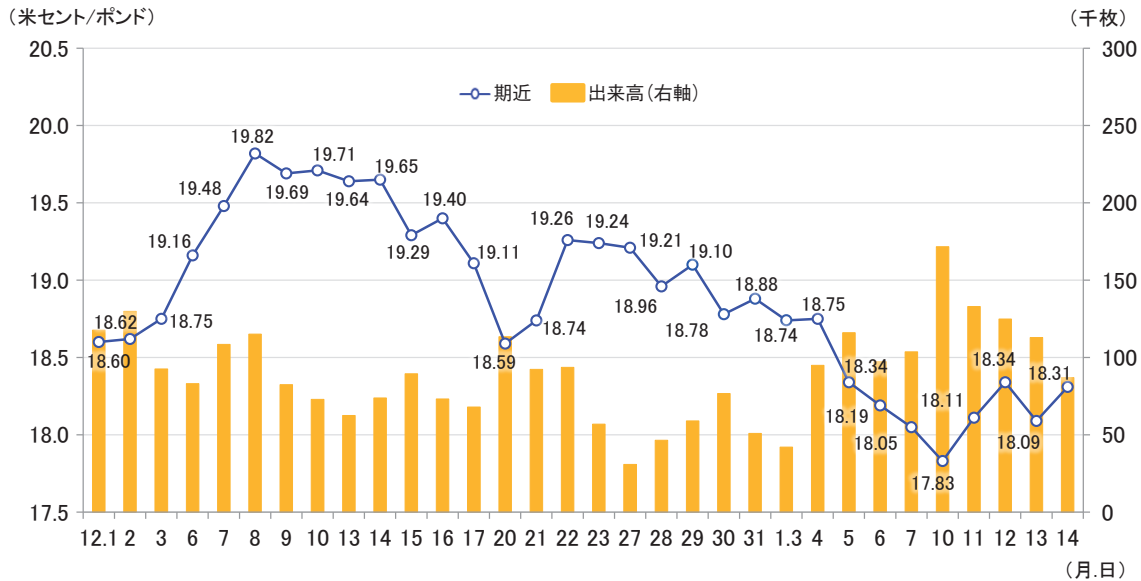
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002607.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/1～1/14）

～12月上旬に約5年ぶりの高値を付けるも、中旬以降は下落傾向で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年12月の推移を見ると（3月限）、2日以降は、原油価格の回復などに伴う上昇を続け、8日はリアル高^{（注1）}も加わって1ポンド当たり19.82セント^{（注2）}と約5年ぶりの高値を付けた。15日は、原油価格の下落^{（注3）}やリアル安に引きずられて同19.29セントまで下落した。16日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）の発表した11月後半の砂糖生産量が、前年同期比で大幅な減少であったことを受けて、同19.40セントまで値を上げた。17日は、ブラジルのサトウキビ主産地での降雨がサトウキビの生育促進をもたらすとの見方から、同19.11セントまで値を下げた。20日は、原油価格の下落やリアル安に伴い、同18.59セントまで続落したものの、その後原油価格の回復を受けて上昇に転じ、22日は同

19.26セントと19セント台まで値を戻した。23日以降はほぼ横ばいで推移したが、28日は、ドル高の影響を受けて同18.96セントまで下落した。30日は、年末の利食い売りの発生により、同18.78セントまで下落した。

2022年1月3日は、インド製糖協会（ISMA）が2021/22年度（10月～翌9月）の12月末時点の生産実績が前年同期から増加すると発表したことを受け、同18.74セントまで下落した。5日以降は、ブラジルやインド、タイなどでの増産見込みから下落が続き、10日は同17.83セントまで値を下げた。11日以降は、原油価格やリアル相場の動きに合わせて推移し、14日は、同18.31セントまで値を戻した。

(注1) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年1月時点予測)

ブラジル

2021/22年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：868万ha(前年度比0.3%増)

生産量：5億8250万トン(同11.4%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3810万トン(同14.6%減)

輸出量：2756万トン(同19.1%減)

2021/22年度の生産量と輸出量は、前月予測から上方修正

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2022年1月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は、868万ヘクタール(前年度比0.3%増)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、中南部地域において乾燥気候が継続している上、7月などに霜害も発生したことにより5億8250万トン(同11.4%減)と

かなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、サトウキビの減産を受けて3810万トン(粗糖換算<以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算>)、同14.6%減)と、前月予測から改善されたものの、依然としてかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も同様に、砂糖の減産や、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などで同国産の粗糖需要が低下していることから、2756万トン(同19.1%減)と依然として大幅に減少すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

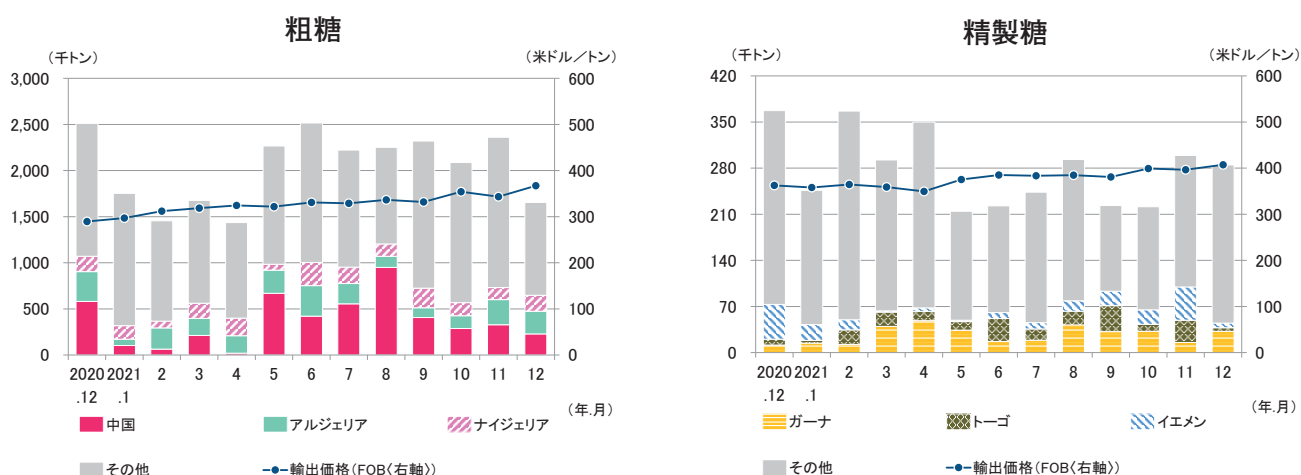
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,651	8,767	8,676	0.3%
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,432	579,000	582,500	▲11.4%
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,597	38,010	▲14.6%
	輸入量	3	2	2	2	▲16.9%
	消費量	10,374	10,842	10,996	11,021	▲1.8%
	輸出量	21,017	20,321	34,042	27,349	▲19.1%
	期末在庫量	3,131	3,774	3,335	1,735	▲7.6%
	期末在庫率	10.0	12.1	7.4	4.5	8.0

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：499万ha(前年度比2.0%増)
生産量：4億1063万トン(同2.1%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：3321万トン(同0.6%減)
輸出量：731万トン(同14.4%減)

2021/22年度の砂糖輸出量は、前月予測から上方修正

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、499万ヘクタール(前年度比2.0%増)とわずかに増加すると見込まれる(表3)。主産地

の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億1063万トン(同2.1%増)とわずかな増加が見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した10月頃の大雨によるサトウキビの品質低下や、エタノー

ルやグル^(注1)の生産に仕向けられるサトウキビの増加により、3321万トン(同0.6%減)とわずかに減少すると見込まれる。輸出量は、粗糖の輸出が伸び悩む一方、精製糖の輸出は粗糖と比べて順調に行われている状況を受けて、前月予測から上方修正されたものの、依然として731万トン(同14.4%減)とかなり大きな減少が見込まれる。近年、インドの在庫状況が改善される中、2021年12月、世界貿易機関(WTO)紛争処理委員会(パネル)が公表したインド政府の砂糖政策に関する報告書では、同国のサトウキビの最低買い取り価格や砂糖の輸出補助金がWTO協定に違反していると結論付けられた^(注2)。現時点において2021/22年度の輸出補助金政策は実施されていないものの、同国産砂糖の輸出価格が上昇基調にある中、今後の同国産砂糖輸出の動向が注目される。

(注1) グルとは、サトウキビの搾り汁を清浄化した後、オープンパン(釜炊き)で煮詰め、固形状にした含みつ糖のことで、現地では一般にジャガリーと称される。グルの製造の様子については、当機構Facebookの動画投稿欄(https://www.facebook.com/alicjapan/videos/?ref=page_internal)の【インドの伝統的な含みつ糖「グル」～砂糖類・でん粉情報5月号に掲載しました～】を参照されたい。

(注2) WTO紛争解決委の裁定については、2022年1月13日付海外情報「WTO紛争解決委、インドの砂糖政策を協定違反と裁定」(本誌60ページまたはhttps://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003153.html)を参照されたい。

2020/21年度のエタノール供給量、前年度比7割増

インド消費者問題・食糧・公共配給省は2021年12月17日、2020/21エタノール年度(12月～翌11月)に、国内のエタノール工場が公営石油販売会社(OMC)に供給したガソリン混合用エタノールは、302万キロリットル(前年度比74.7%増)

に達したと発表した。なお同省は、エタノールの生産や活用を促進するためにさまざまな施策が実施されているとして、具体的に以下六つの取り組みを挙げた。

- ①エタノール生産能力の向上を目的とした設備投資への借入金に対する利子補給を実施
- ②エタノール生産に利用できる原料の対象品目^(注1)を拡大
- ③エタノール買取価格の設定
- ④エタノールの国内流通を自由に行えるようにするための法律改正^(注2)
- ⑤ガソリン混合用エタノールの物品サービス税(GST)の減税^(注3)
- ⑥エタノールを最大12%または15%含む混合ガソリン(E12およびE15)の規格および排出基準^(注4)の設定

また、現地報道によると、同年度のガソリンへのエタノール混合率は8.1%(前年度比約3ポイント増)とされているが、同政府は、施策の実施を通じ、エタノール混合率を2021/22エタノール年度には10%、25年中には20%までの引き上げを目指している。

(注1) 現在、同国では、農作物残さ(綿の茎、トウモロコシの穂軸、おがくず、バガスなど)、でん粉を含む農作物(キャッサバなど)、傷んでしまった穀物(小麦や米)、その他糖分を含む作物(てん菜、スイートソルガム)などが原料として許可されている。

(注2) Industries (Development & Regulation) Act, 1951の改正によって14の州でエタノールの流通が自由化されたが、デリーやウツタル・プラデーシュ州など一部のガソリンの主要消費州では未だ改正されていない。

(注3) 21年12月16日、ガソリン混合用エタノールのGSTは18%から5%に引き下げられた。

(注4) これらの設定により、E12やE15対応車を同国内で製造できるようになった。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

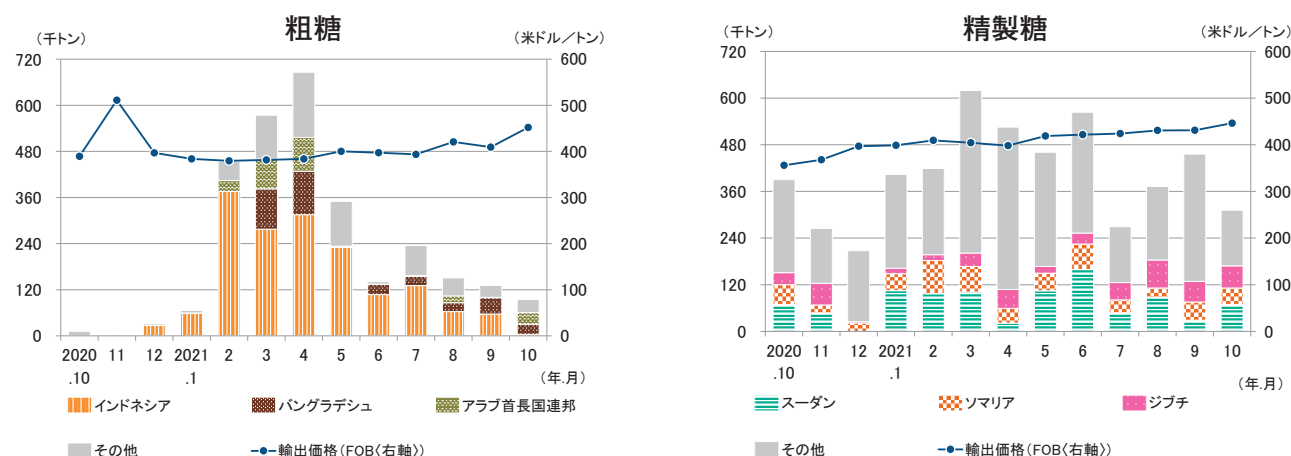
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,888	4,985	4,985	2.0%
サトウキビ生産量	404,528	369,637	401,983	410,626	410,626	2.1%
砂糖	生産量	35,798	29,437	33,426	33,210	▲0.6%
	輸入量	664	1,687	1,022	270	▲52.5%
	消費量	27,540	27,108	28,679	28,620	1.3%
	輸出量	5,483	8,254	8,538	6,873	▲14.4%
	期末在庫量	14,963	10,724	7,956	6,248	▲33.4%
	期末在庫率	45.3	30.3	21.4	17.6	14.6

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha(前年度比3.6%減)

生産量：7389万トン(同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積：14万ha(同37.8%減)

生産量：810万トン(同34.6%減)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1084万トン(同6.0%減)

輸入量：605万トン(同26.9%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度減少し、輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール(前年度比3.6%減)

とやや減少が見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であるため、7389万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度の

てん菜の収穫面積は、トウモロコシへ転作する農家の増加により^(注1)、14万ヘクタール(同37.8%減)と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、810万トン(同34.6%減)と大幅な減少が見込まれており、2021年11月末時点ですでに今期の操業を終了した工場数が前年度よりも多い^(注2)ことから、さらなる減少の可能性も考えられる。

砂糖生産量は、てん菜糖生産量の減少を受けて1084万トン(同6.0%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2021年の砂糖輸入が前年を上回るペースで推移し、国内の在庫の積み増しが想定されることから、605万トン(同26.9%減)と大幅に減少すると見込まれる。

(注1) 同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告(2021-2030)を公表(飼料編)(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.html)を参照されたい。

(注2) 操業を終了した製糖工場数は7(前年度は2)。なお、てん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停滞や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染抑制策の実施、相次ぐ寒波の到来などが重なり、一部のてん菜は収穫されずに凍ったまま圃場に放置されている状況となっている。

広西チワン族自治区のサトウキビ産地、「三品一標」産地に選出

中国農業農村部は2021年12月28日付のプレスリリースで、各省の推薦と専門家による審査を経て、この度、国内の100拠点が「三品一標」産地として選出されたと発表した。砂糖の原料作物については、広西チワン族自治区来賓市興賓区^{らいひん し こうひん く}のサトウキビ産地が選ばれた。三品一標とは、中国政府が定めた安全かつ高品質な農産物のことを指し、有機農産品、緑色農産品、無公害農産品^(注1)の三品と農産物の

地理的表示を総称して三品一標と呼ばれている。

農業農村部によると、今回選出された100拠点は四つの特徴を有するとしている。

- ・高い生産管理レベル
(優良品種の栽培や、節水や肥料、農薬のコスト低減に優れた最先端の環境配慮型生産技術モデルの普及)
- ・大規模圃場での生産
(砂糖の原料作物や野菜、果物などは5000ムー(334ヘクタール^(注2))以上)
- ・農産物の地理的表示または農産物の原産地認定といったブランド力のある認証の取得
- ・大手企業や専門協同組合、大規模農家などによる生産や経営の標準化

(注1) 有機農産品とは、生産過程において化学合成農薬、化学肥料などを使用しないことで環境負荷の低減を図り、政府機関がその品質を認証したものを指す。緑色農産品とは、国立緑色食品発展センターによって認証された高品質かつ栄養価の高い農産品のことを指す。無公害農産品とは、政府の安全管理基準に基づき生産、加工されており、人の健康に害を及ぼすことのない農産品のことを指す。

(注2) 1ムー=0.0667ヘクタール。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

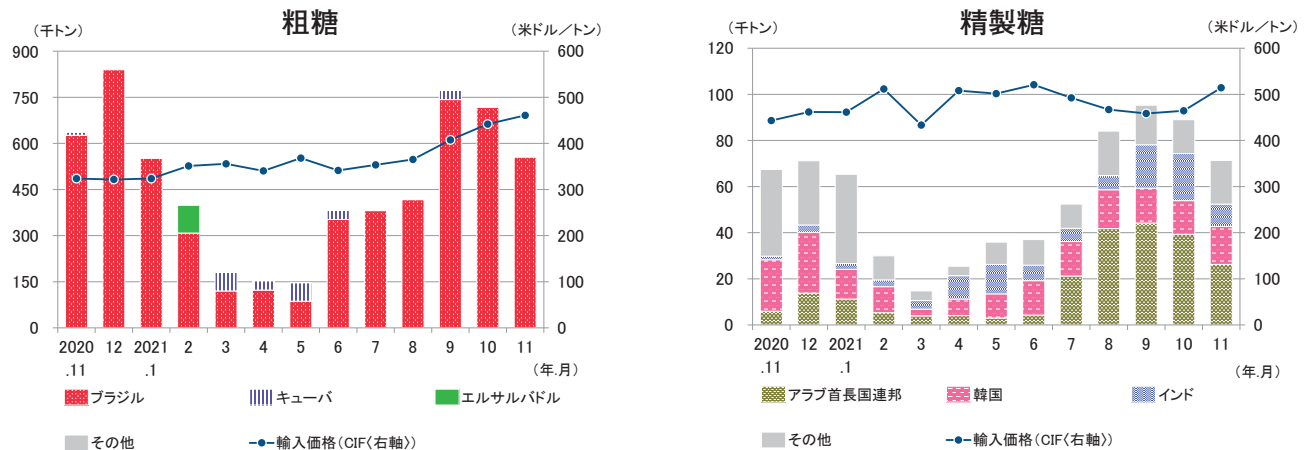
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲3.6%
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲37.8%
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	8,100	8,100	▲34.6%
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,839	▲6.0%
	輸入量	5,052	6,586	8,273	5,978	▲26.9%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	159	14.8%
	期末在庫量	11,233	12,472	15,294	15,104	▲0.7%
	期末在庫率	67.1	75.1	90.1	88.8	89.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha(前年度比1.0%減)
生産量：1億1039万トン(同11.9%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1726万トン(同14.0%増)
輸出量：138万トン(同9.7%増)

2021/22年度の輸出量は、増加見込みに転じる

2021/22年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール(前年度比1.0%減)と

わずかな減少が見込まれる(表5)。てん菜生産量は、過去の干ばつの影響を受けた状況と比べ、今期は生育期間の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億1039万トン(同11.9%増)とかなり大

大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産を受けて1726万トン（同14.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、EU域内における砂糖需要の回復や現状の在庫水準などを

踏まえ、138万トン（同9.7%増）と前月予測から上方修正されたものの、依然として100万トン台前半の水準となるものと見込まれている。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,599	1,517	1,476	1,462	1,461	▲1.0%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,649	109,805	110,386	11.9%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,243	17,260	14.0%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,654	1,592	▲15.7%
	消費量	17,578	17,123	16,738	17,289	17,254	3.1%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,241	1,384	9.7%
	期末在庫量	1,706	2,349	1,375	1,579	1,590	15.6%
	期末在庫率	8.5	12.7	7.6	8.5	8.5	0.9ポイント増

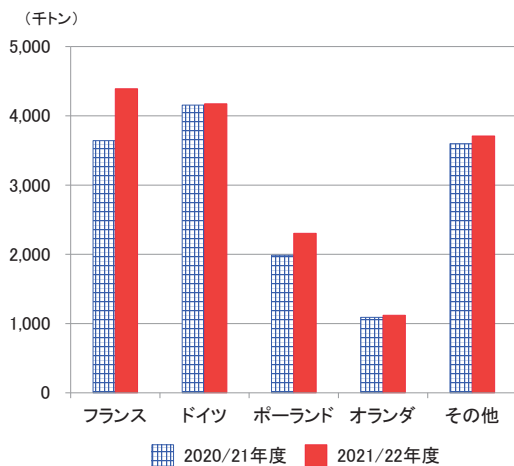
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

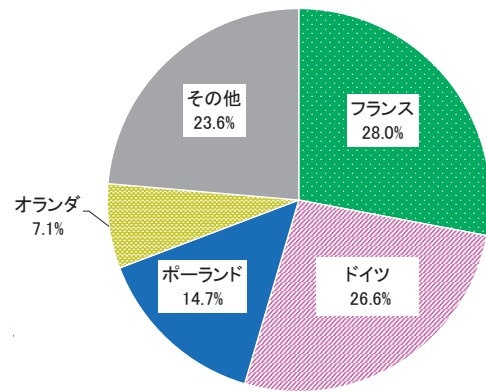
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年9月時点)

EUの砂糖生産見通し



国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2022年1月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.5%減）

生産量：3039万トン（同2.2%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：418万トン（同3.5%減）

輸出量：310万トン（同7.6%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3039万トン（同2.2%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、COVID-19の拡大による都市封鎖や主力製糖工場での機械故障などによる稼働率の低下、収穫期終盤の豪雨による収穫作業の遅れなどが影響し、418万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、依然とした期末在庫量の減少を背景に、310万トン（同7.6%減）と減少傾向が続くと見込まれている。

英国とのFTAに署名、豪砂糖業界は砂糖の関税割当枠の獲得を歓迎

豪州政府は2021年12月17日、英国との自由貿

易協定（FTA）に署名し、同国の輸出業者、農家、労働者、消費者などが出来る限り速やかに同FTAの恩恵を受けられるよう、22年内の発効を目指して国内手続きを進めるとしている。なお、同FTAが発効すると、豪州産砂糖の関税が9年目に撤廃されることとなる（無関税の関税割当数量を初年に8万トン設定し、8年目に22万トンになるよう、均等に引き上げるもの）。

同国クイーンズランド州のサトウキビ生産者団体であるCANEGROWERSは署名のニュースを受けて、輸出志向型の豪州砂糖産業にとって重要とされる輸出先の多様化が同FTAによってもたらされ、生産者にとってもサトウキビ作付面積の拡大などの投資に取り組める環境になるとして、歓迎の意を示した。また、英国までの輸送コストは高いものの、英国の精製糖業者は高品質な豪州産粗糖を高く評価していると述べ、英国向け輸出への意欲を示した。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	355	350	350	▲1.5%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,074	30,392	30,392	▲2.2%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,335	4,152	4,182	▲3.5%
	輸入量	18	17	10	15	15	47.5%
	消費量	1,044	1,056	1,036	1,062	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,103	3,103	▲7.6%
	期末在庫量	971	776	729	664	761	4.5%
	期末在庫率	21.1	17.2	16.6	15.9	18.3	1.7ポイント増

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022]

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9250万トン（同38.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1086万トン（同38.2%増）

輸出量：797万トン（同2.0倍）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と前年並みで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が前年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9250万トン（同38.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量の大幅な回復を

受けて1086万トン（同38.2%増）と大幅に増加すると見込まれ、輸出量もサトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、797万トン（同2.0倍）と大幅な回復が見込まれる。なお、期末在庫量は、増産見込みながらも、輸出量の大幅な回復から431万トンと前年度よりも減少し（同12.6%減）、期末在庫率も37.5%（同27.9ポイント減）と19/20年度の水準まで大幅に低下すると見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

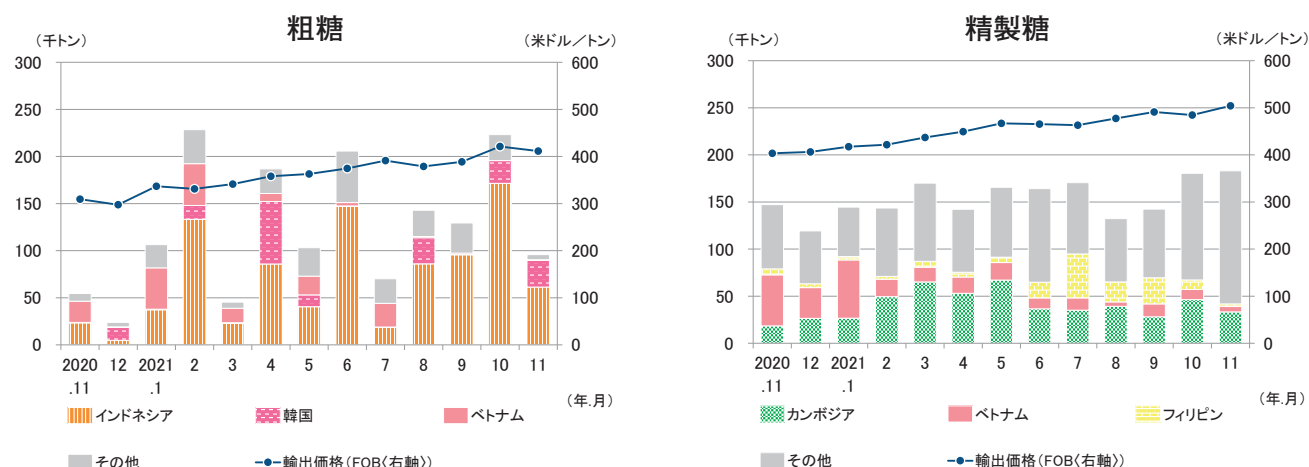
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (12月予測)	2021/22 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,500	92,500	38.8%	
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,862	10,608	10,862	38.2%
	輸入量	4	59	90	3	3	▲96.6%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,720	7,966	2.0倍
	期末在庫量	7,899	4,525	4,935	4,303	4,313	▲12.6%
	期末在庫率	57.0	37.0	65.4	38.3	37.5	27.9ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2022]

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。